



2026年10月期 第3四半期決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Sep.11th.2026

2026年10月期 3Q決算の概況

連結

売上高 24,230 百万円
(前期比+15.0%)

営業利益 1,395 百万円
(前期比△11.2%)

光事業

売上高 13,123 百万円
(前期比+18.4%)

営業利益 △178 百万円
(前期は△415 百万円)

エレクトロニクス事業

売上高 11,106 百万円
(前期比+11.3%)

営業利益 1,574 百万円
(前期比△20.8%)

- 光事業はデジタルカメラ市場における光学プレス品の堅調な需要に伴い増収。
また、コストが増加したものの、適正利益の確保に向けた価格改定を実施したことから損失は縮小。
- エレクトロニクス事業は光通信機器向け製品の販売が堅調のため増収。
また、半導体露光装置向け製品の上期の在庫調整の影響が大きかったことから減益。

2026年10月期 業績見通し

連結

売上高 33,700 百万円
(前期比+16.6%)

営業利益 2,100 百万円
(前期比+17.0%)

光事業

売上高 17,800 百万円
(前期比+16.3%)

営業利益 △500 百万円
(前期は△799 百万円)

エレクトロニクス事業

売上高 15,900 百万円
(前期比+17.0%)

営業利益 2,600 百万円
(前期比+0.2%)

- 業績見通しについては足元の状況を踏まえ、光事業とエレクトロニクス事業の通期業績予想を修正。(詳細は11ページを参照)
- 光事業とエレクトロニクス事業の下期業績回復に伴い、売上高は過去最高水準、営業利益は前期を上回る見込み。



CONTENTS

1 2026年10月期 3Q決算の概況

- 業績サマリー
- 光事業①
- 光事業②
- エレクトロニクス事業①
- エレクトロニクス事業②

2 2026年10月期 業績見通し

- 26/10期業績予想修正まとめ
- 通期見通しサマリー
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

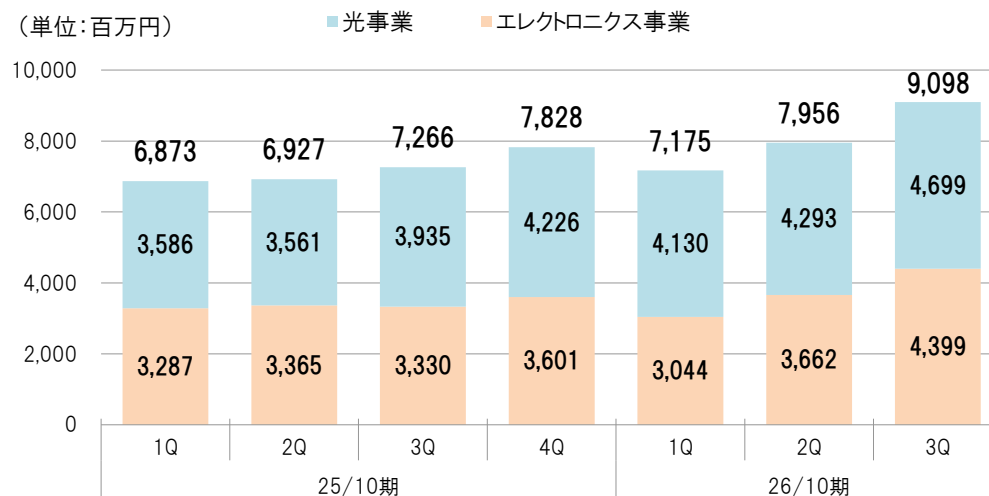
2026年10月期 3Q決算の概況

(単位:百万円、%)

	25/10期 3Q累計	26/10期 3Q累計	増減 増減率
売上高	21,067	24,230	3,162 15.0%
営業利益	1,571	1,395	△175
[営業利益率]	7.5%	5.8%	△11.2%
経常利益	1,955	1,808	△147
[経常利益率]	9.3%	7.5%	△7.5%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,130	1,149	19
[純利益率]	5.4%	4.7%	1.7%
為替レート 円／1USD 円／1EUR	期中平均 149.43 163.38	期中平均 158.23 183.93	

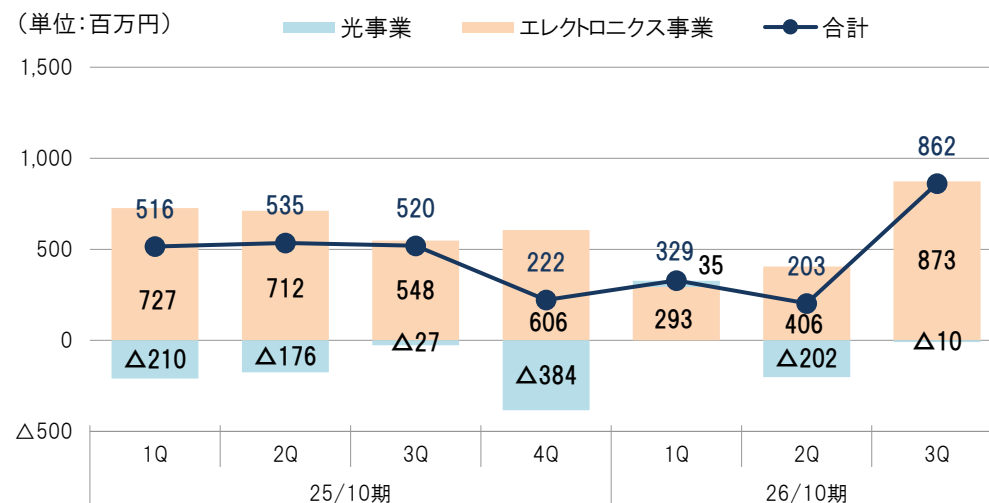
売上高四半期推移

(単位:百万円)

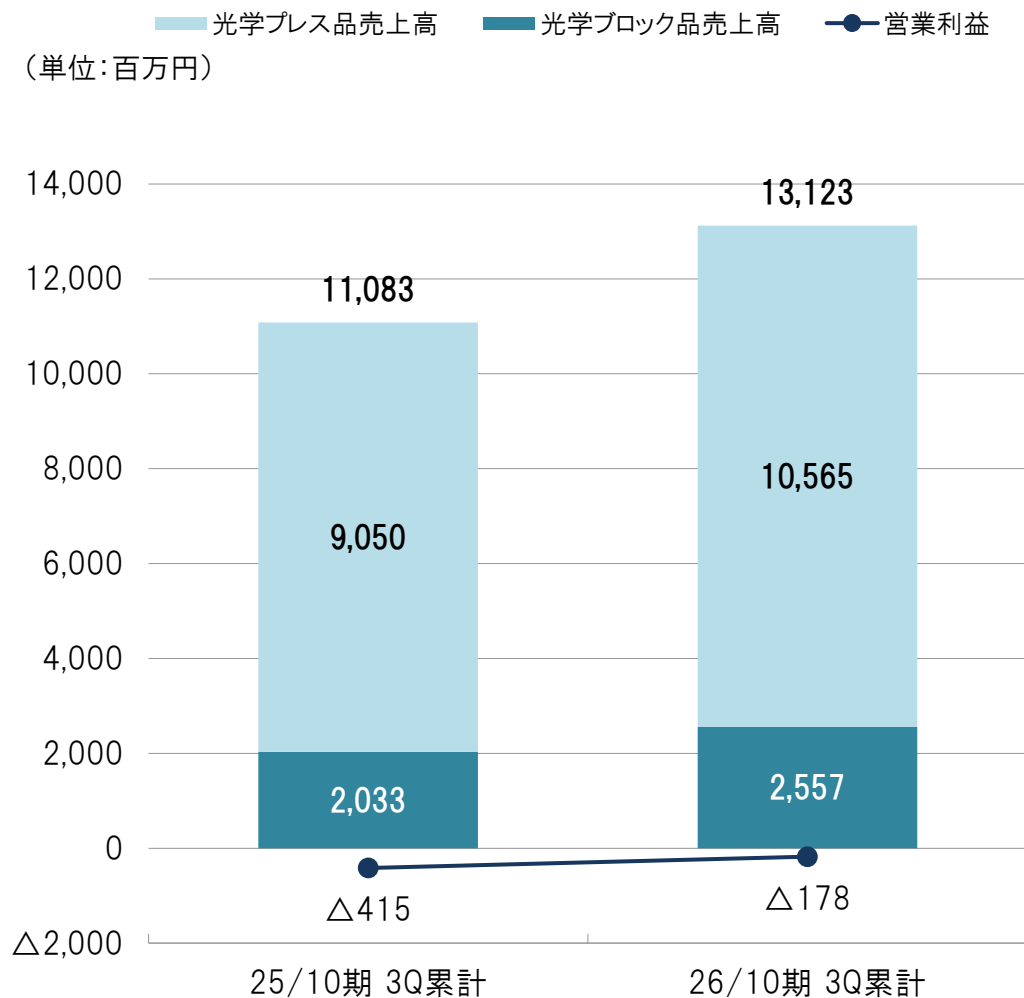


営業利益四半期推移

(単位:百万円)



3Q累計対比

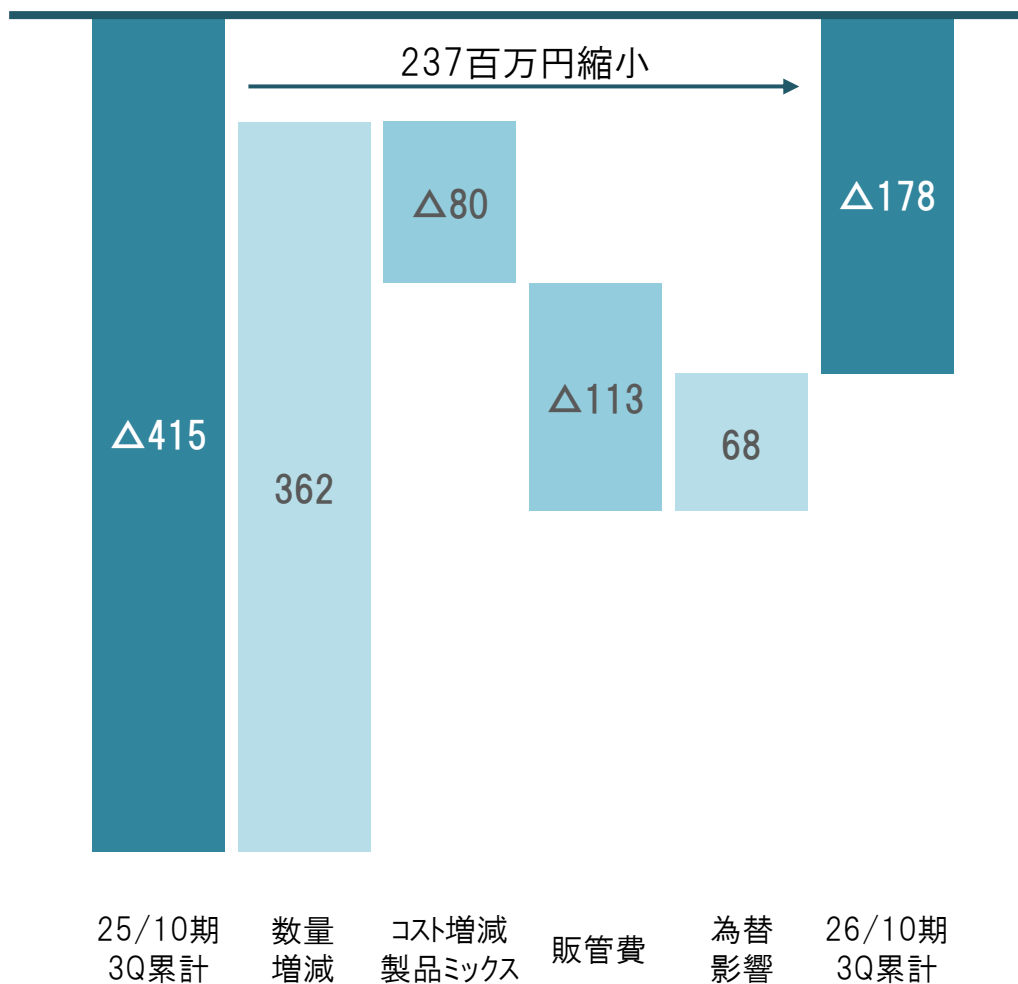


業績のポイント

- 売上高は13,123百万円
(前年同期比18.4%増)
- 営業損失は178百万円
(前年同期は415百万円の営業損失)
- 光学プレス品および光学ブロック品は、デジタルカメラ市場の堅調な需要を背景に販売が増加
- 特に光学プレス品に関してはデジタルカメラ向けの高単価な川下製品の販売が拡大

営業損益増減要因

(単位:百万円)



業績のポイント

【数量増減】+362

- 高単価な川下製品を中心に日本・アジア向け販売が増加したため改善

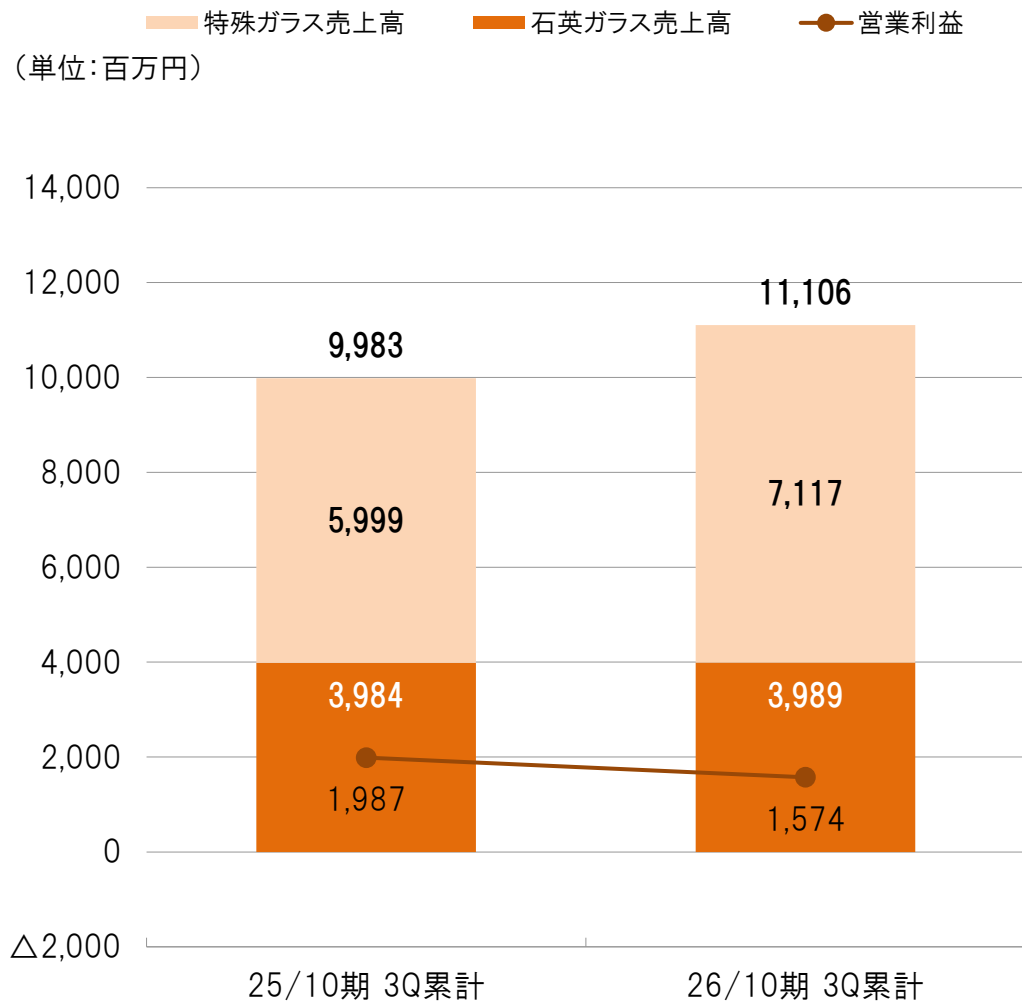
【コスト増減、製品ミックス】△80

- 適正利益の確保に向けた価格改定を実施したものの、原材料費高騰、レアアース調達リスク対応、中国における増値税還付廃止などによりコストが増加

【販管費】△113

- 主に人件費の増加影響

3Q累計対比

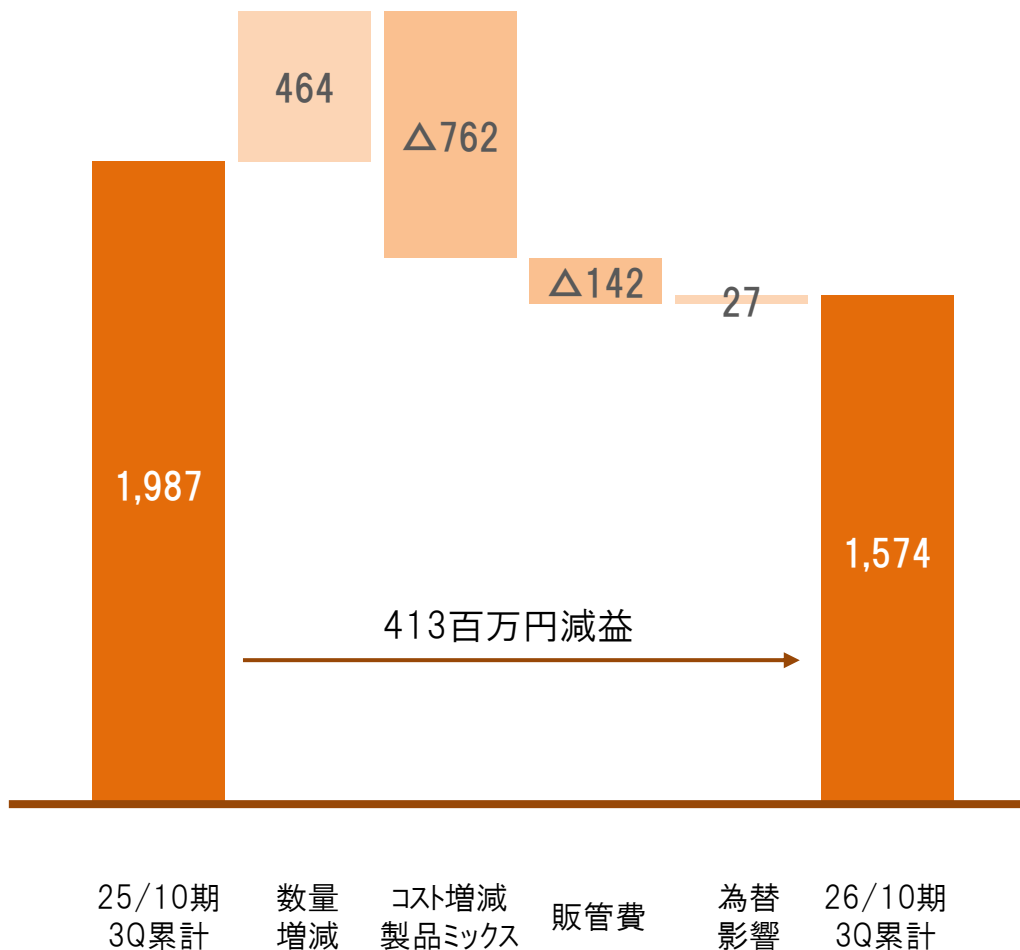


業績のポイント

- 売上高は11,106百万円
（前年同期比18.6%増）
- 営業利益は1,574百万円
（同20.8%減）
- 特殊ガラスは、上期における半導体露光装置向け製品の在庫調整が影響したものの、AIサーバー向けプリント基板へ使用される低誘電ガラスに加えて、光通信機器向け製品の販売が増加
- 石英ガラスは、FPD露光装置向け製品の需要が減少したものの、半導体露光装置向け製品の需要が増加したことから販売が増加

営業損益増減要因

(単位:百万円)



業績のポイント

【数量増減】+464

- データセンター投資拡大を背景に光通信機器向け製品の販売が増加した影響

【コスト増減、製品ミックス】△762

- 上期における半導体露光装置向け製品の在庫調整の影響が大きく、製品ミックスが悪化

【販管費】△142

- 主に人件費の増加影響

2026年10月期 業績見通し

26/10期業績予想修正まとめ

【光事業】

売上高はデジタルカメラ向けの高単価な川下製品、光学機器向け製品の需要が想定を上回って推移していることから上方修正。営業利益は4Qに一時費用の発生を見込むことから下方修正。

【エレクトロニクス事業】

売上高はデータセンター投資拡大を背景に光通信機器向け製品の需要が増加していることから上方修正。営業利益は増収効果に加えて、製品ミックスが改善することから上方修正。

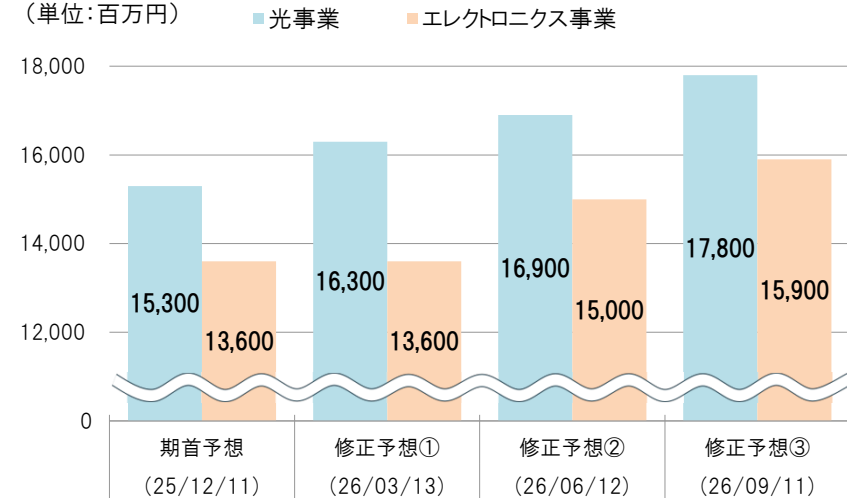
(単位:百万円)

通期	期首予想 (25/12/11)	修正予想① (26/03/13)	修正予想② (26/06/12)	修正予想③ (26/09/11)	増減額 ③-②
売上高	28,900	29,900	31,900	33,700	1,800
光事業	15,300	16,300	16,900	17,800	900
光学プレス品	12,700	13,600	13,900	14,300	400
光学ブロック品	2,600	2,700	3,000	3,500	500
エレクトロニクス事業	13,600	13,600	15,000	15,900	900
特殊ガラス	8,300	8,300	9,700	10,400	700
石英ガラス	5,300	5,300	5,300	5,500	200
営業利益	1,100	1,600	1,800	2,100	300
光事業	△700	△300	△400	△500	△100
エレクトロニクス事業	1,800	1,900	2,200	2,600	400
経常利益	1,600	2,000	2,200	2,500	300
純利益 (親会社株主に帰属)	900	1,200	1,400	1,600	200
為替レート	期中平均	期中平均	期中平均	期中平均	
円／1USD	150.00	150.00	150.00	155.00	
円／1EUR	165.00	175.00	175.00	180.00	

2_2026年10月期 業績見通し

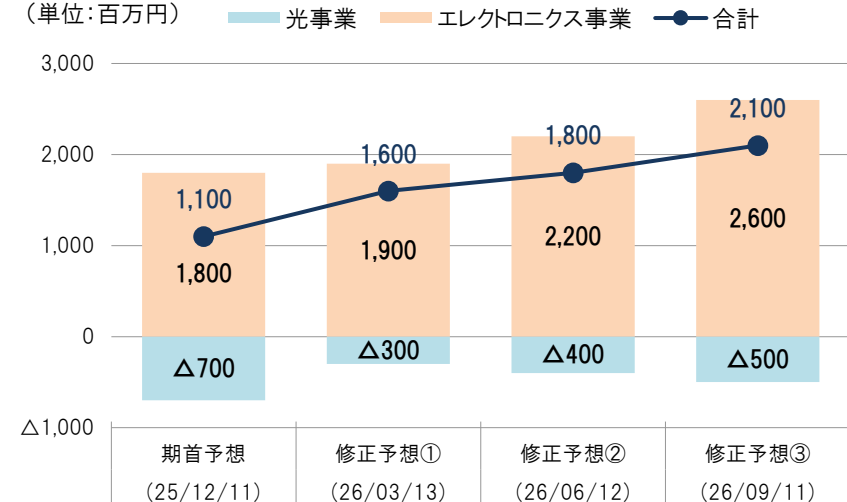
売上高推移

(単位:百万円)



営業利益推移

(単位:百万円)

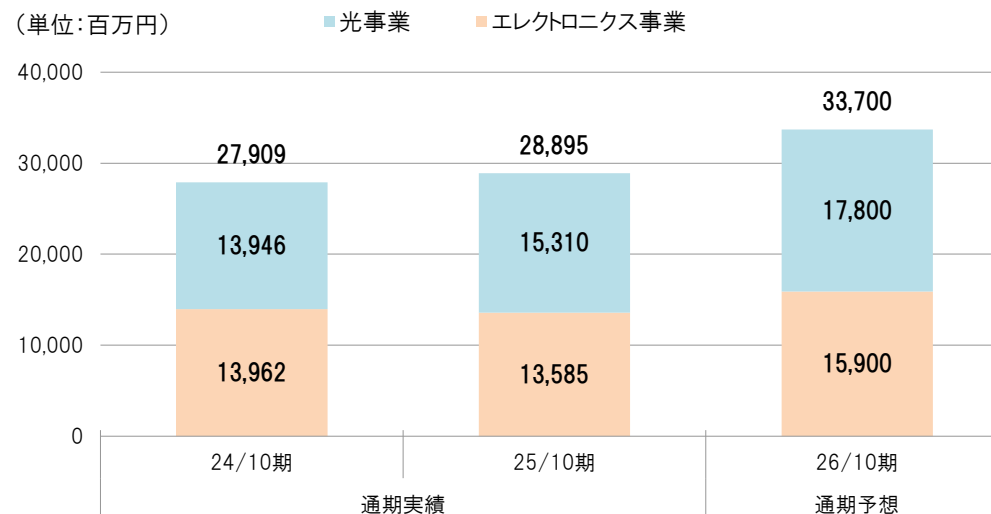


(単位:百万円、%)

	25/10期 通期	26/10期 通期予想	増減 増減率
売上高	28,895	33,700	4,804 16.6%
営業利益	1,794	2,100	305
[営業利益率]	6.2%	6.2%	17.0%
経常利益	2,289	2,500	210
[経常利益率]	7.9%	7.4%	9.2%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,730	1,600	△130
[純利益率]	6.0%	4.7%	△7.6%
為替レート 円／1USD 円／1EUR	期中平均 149.34 166.06	期中平均 155.00 180.00	
年間配当金 (円)	25.0	25.0	

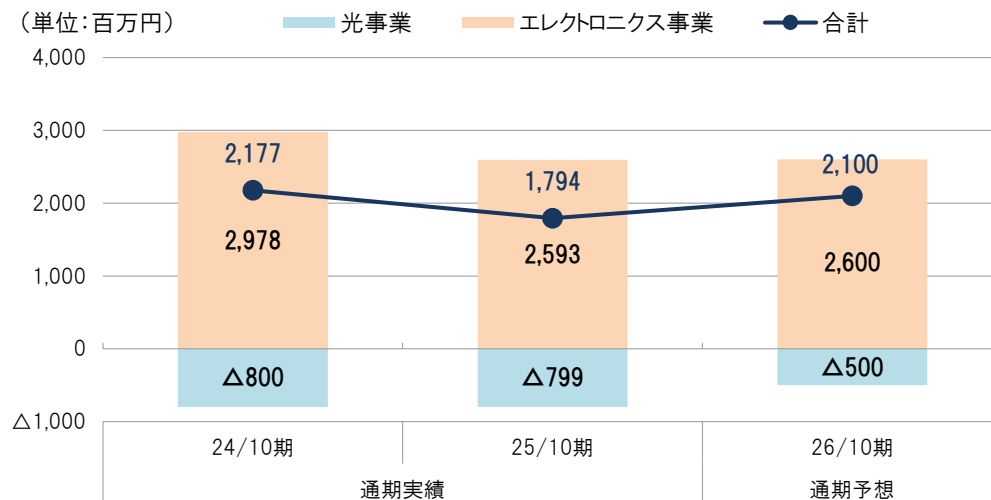
売上高内訳

(単位:百万円)

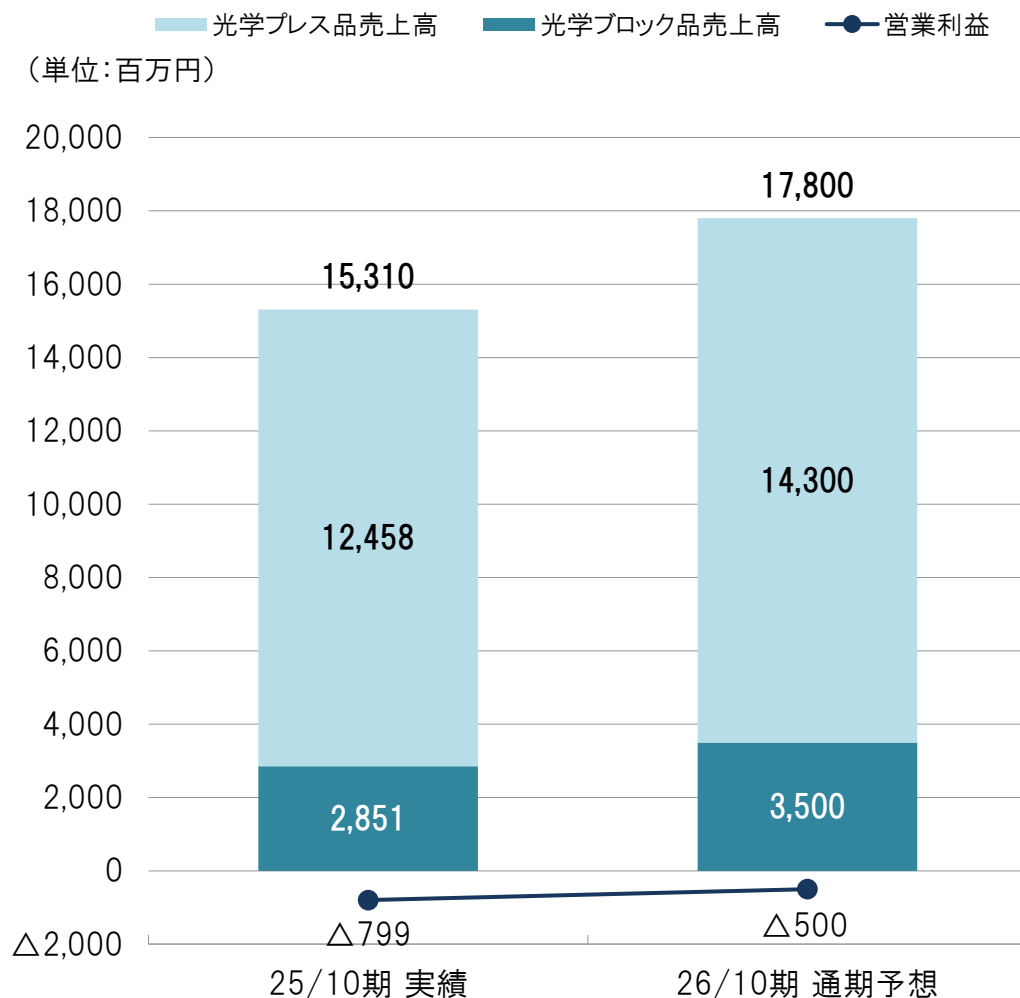


営業利益内訳

(単位:百万円)



通期対比



見通しのポイント

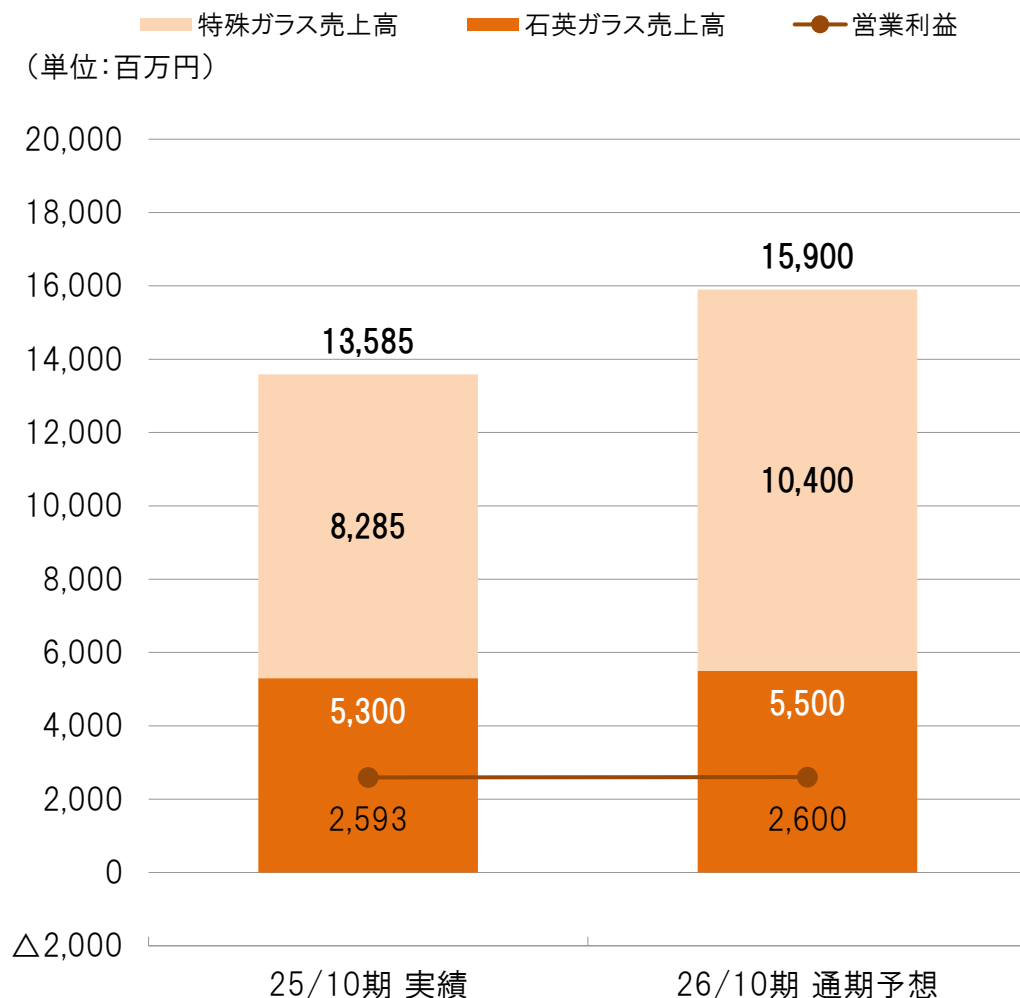
【売上高】

- 前期比16.3%の増収見込み
- 光学プレス品はデジタルカメラ向けの高単価な川下製品の販売が増加することに加えて、光学ブロック品は光学機器向けに販売が増加する見込み

【営業利益】

- 光学ガラス生産拠点を再編により生産性が向上、また製品価格改定を実施
- 一方で原材料費高騰、レアアース調達リスク対応、中国における増値税還付廃止などのコスト増加に加えて、第4四半期に棚卸資産整理に伴う一時的な費用が発生する見込み
- 上記要因を踏まえ、営業損失となる見込み

通期対比



見通しのポイント

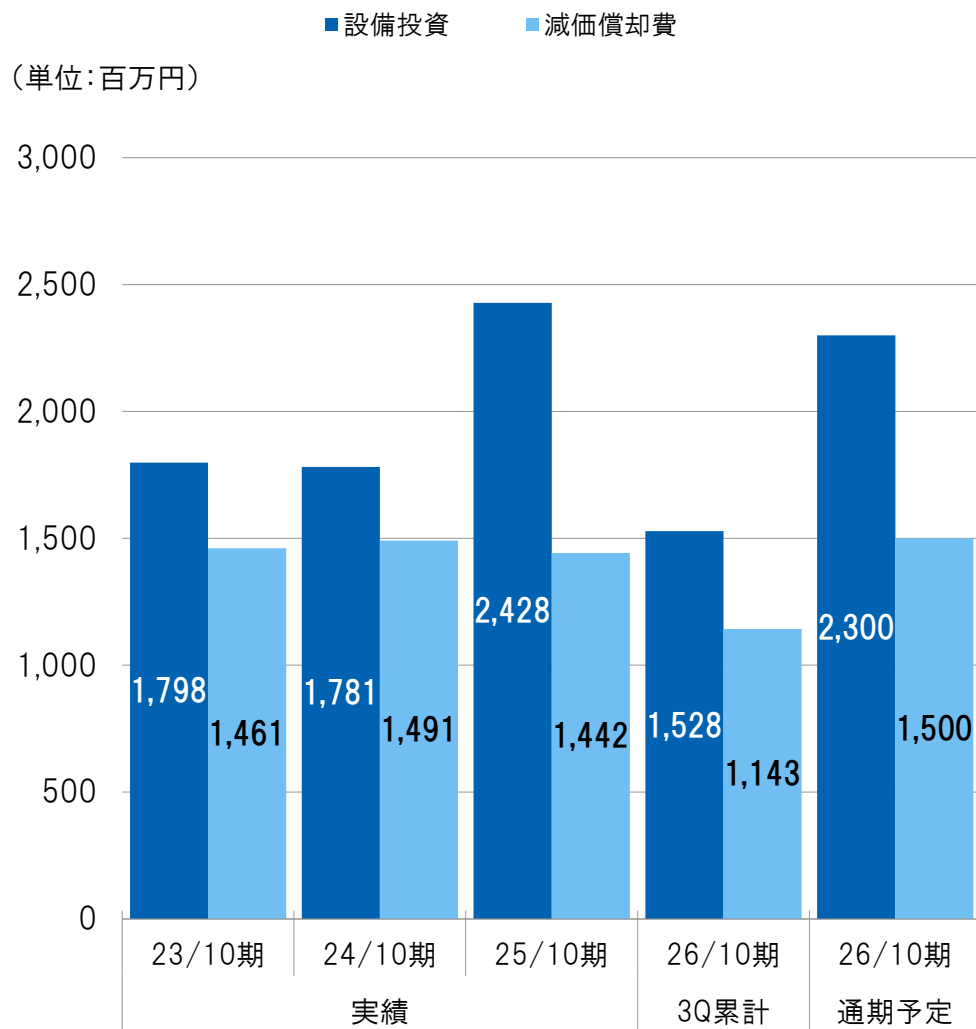
【売上高】

- 前期比17.0%の増収となり、過去最高の売上高を更新する見込み
- 半導体露光装置向け製品の需要は、日本およびアジア地域を中心に回復見込み
- 光通信機器向け製品は、データセンター投資拡大を背景に売上高前期比約2倍となる約10億円の見込み
- 低誘電ガラスは、売上高前期比約2倍となる約10億円を達成見込み
- 石英ガラスは、半導体露光装置向け製品の需要が増加する見込み

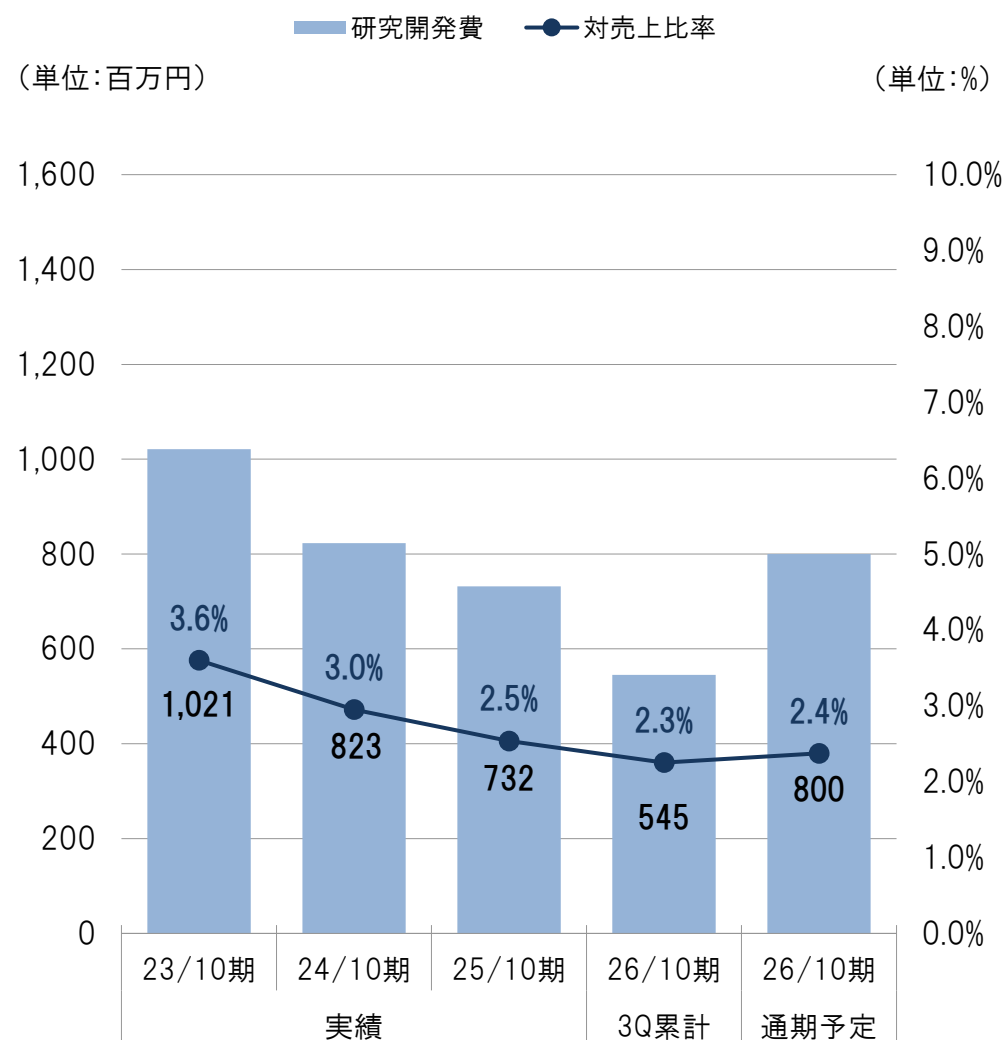
【営業利益】

- 前期比0.2%の増益見込み
- 業績は回復基調であるものの、上期における半導体露光装置向け製品の在庫調整による影響が大きかったことから前期と同水準となる見込み

設備投資、減価償却費



研究開発費

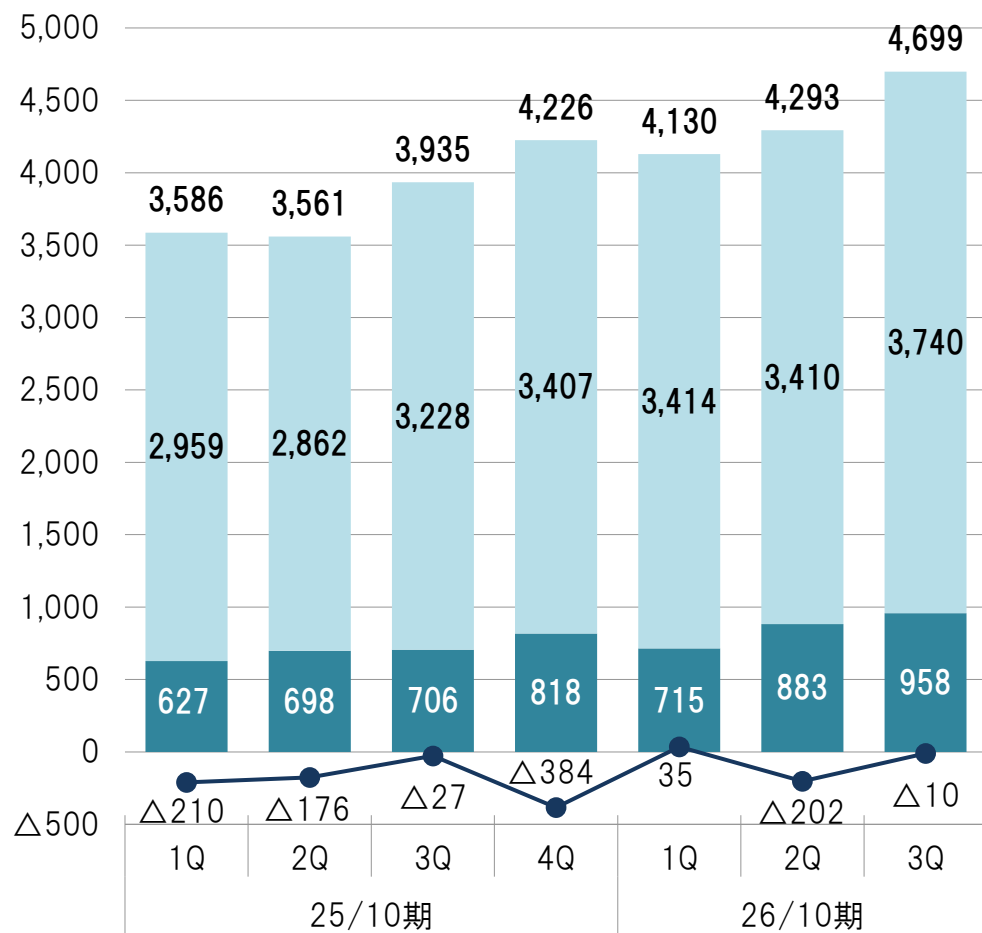


Appendix(参考資料)

光事業

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

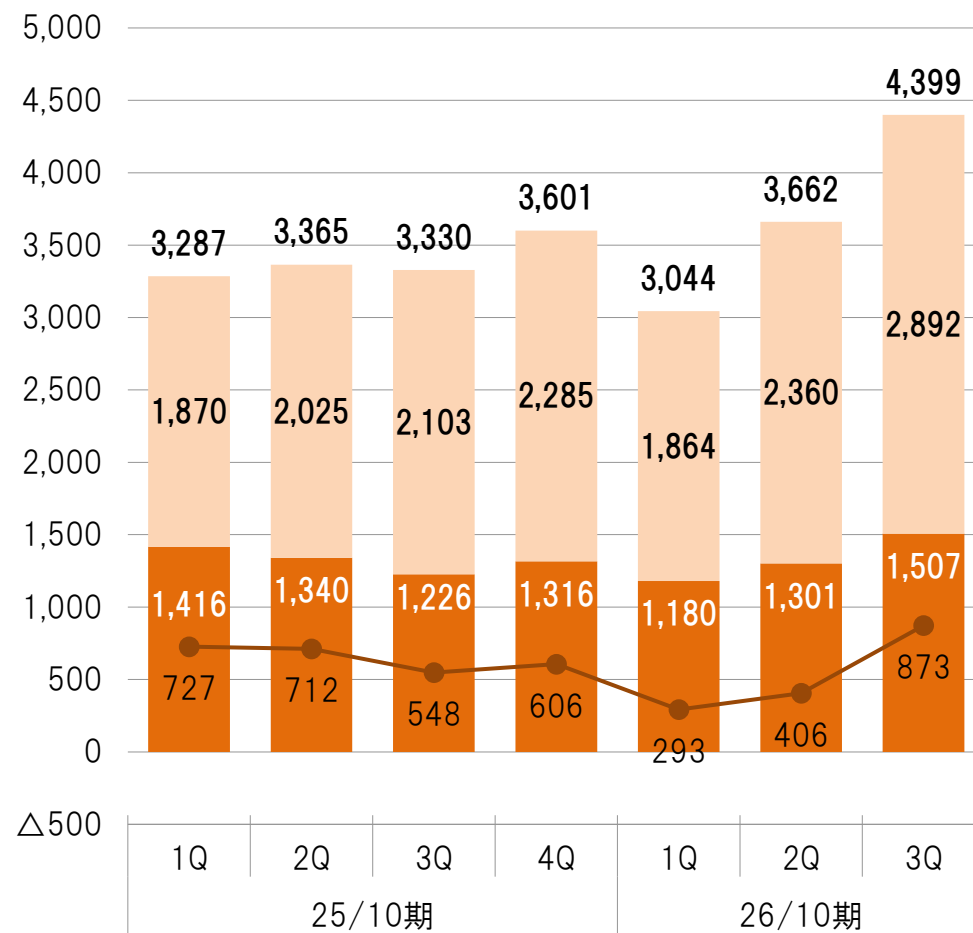
(単位:百万円)



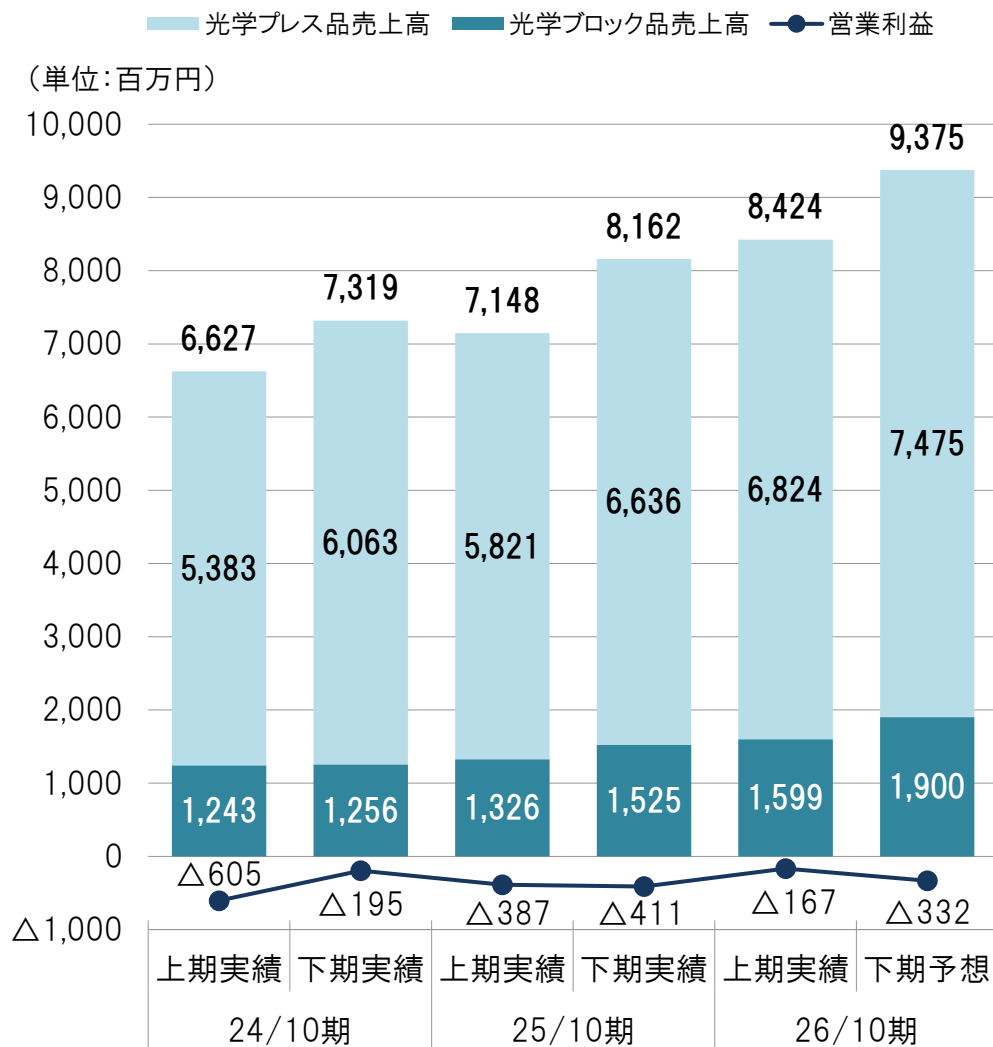
エレクトロニクス事業

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

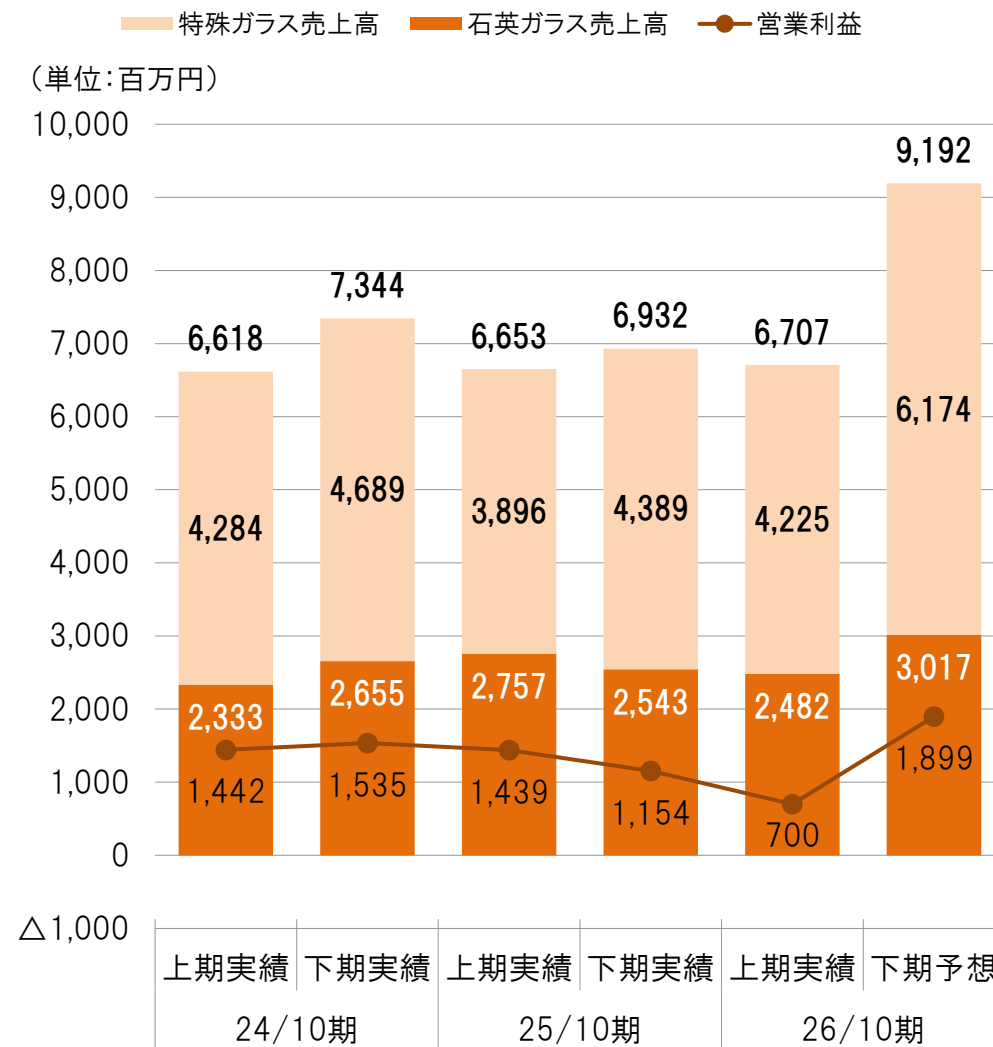
(単位:百万円)



光事業



エレクトロニクス事業



商 号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所 在 地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創 立：1935年(昭和10年)10月1日
 資 本 金：58億5千5百万円
 事 業 内 容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従 業 員：連結1,421名(単体468名)（2025年10月31日時点）
 発行済株式総数：25,450,000株
 株 主 数：10,739名（2025年10月31日時点）



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統轄
取締役専務執行役員	後藤 直雪	生産・技術統轄
取締役常務執行役員	鈴木 雅智	事業統轄兼事業推進センター長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	米山 拓	
監査役(社外)	浅田 稔	
監査役(社外)	飯塚 良成	

大株主

(2026年4月30日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーグループ(株)	4,702	19.8%
2	キヤノン(株)	4,694	19.8%
3	京橋起業(株)	4,688	19.8%
4	三光起業(株)	1,651	7.0%
5	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,098	4.6%
6	セイコーインスツル(株)	610	2.6%
7	オリンパス(株)	400	1.7%
8	オハラ従業員持株会	121	0.5%
9	若林 敬三	120	0.5%
10	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	118	0.5%

※持株比率は、自己株式1,715千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

Copyright© 2026 OHARA INC. All Rights Reserved.

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光学(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



日本
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



台湾
台湾小原光学股份有限公司 台湾小原光学材料股份有限公司



主要製品

製品カテゴリ

光学プレス品

レンズブランク



研磨レンズ



ガラスモールドレンズ (GMO)



光学ブロック品



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

光事業	25/10期 3Q累計	26/10期 3Q累計
売上高(百万円)	11,083	13,123
交換レンズ(レンズ交換式カメラ)	60%	65%
プロジェクター	5%	5%
医療機器(内視鏡等)	10%	5%
車載カメラ	5%	5%
監視カメラ	10%	5%
その他	10%	15%
合計	100%	100%

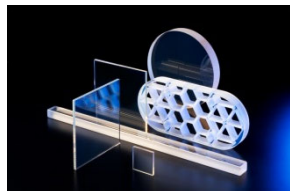
※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種類

主要製品

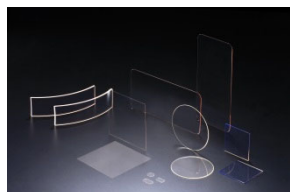
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



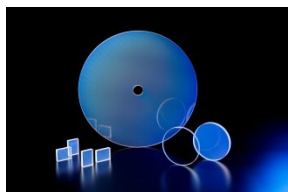
リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICGC™



i線用高均質性
光学ガラス



光通信機器向け
ガラス素材
WMS™-15



石英ガラス



売上高の用途別比率

(単位:%) ※当社想定

エレクトロニクス事業	25/10期 3Q累計	26/10期 3Q累計
売上高(百万円)	9,983	11,106
半導体露光装置(レンズ、構造部材)	35%	30%
FPD露光装置(レンズ、ミラー材)	5%	5%
半導体フォトマスク	10%	10%
光通信機器(DWDMフィルター材)	5%	10%
プロジェクター(TFT基板材)	5%	—
宇宙・天文	5%	5%
低誘電ガラス	—	5%
その他	35%	35%
合計	100%	100%

経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う
未来・社会の姿

安心で快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

オハラの
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにする中で、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく



- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。